

JAバンク群馬における地域密着型金融の取組状況 (平成26年度)



平成27年9月
JAバンク群馬
(農林中央金庫前橋支店)

はじめに

JAバンク群馬（群馬県下 15 JAと農林中央金庫前橋支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成 25～27 年度 JAバンク群馬中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

この度、平成 26 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

【県内 JA の概要】



2 農商工連携の推進

- (1) ビジネスマッチングを通じた経営支援 (JAバンク群馬) 16

3 セミナー・講演会等の開催

- (1) 群馬県農業法人協会春季研修会の開催 (JAバンク群馬) 17
 (2) 群馬県稲作経営者会議とセミナーを共催 (JAバンク群馬) 18

C 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ担い手に適した資金供給手法の徹底

1 資本供与の取組み

- (1) ファンドによる資本供与と経営実態に即した与信枠の設定
 (JAバンク群馬) 19

2 6次産業化の支援

- (1) 学校給食への野菜供給と地元野菜を使った高崎ソース・しょうゆ
 (JAたかさき) 20

3 負債整理資金による経営支援

- (1) 営農再生プランの策定と長期・低利資金の融通による経営支援
 (JA甘楽富岡) 21

D 農山漁村等地域の情報収集を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

1 食・農への理解促進

- (1) 農産物直売所でポイントカードを導入 (JA前橋市) 22
 (2) 梅の魅力を県内外でPR (JAはぐくみ) 23
 (3) 規格外野菜を福祉施設に寄付 (JA甘楽富岡) 24
 (4) ユニクロとコラボレーション企画 (JA碓氷安中) 25
 (5) あぐりキッズスクールの開催 (JA北群渋川) 26
 (6) 青年部による食農教育活動 (JAあがつま) 27
 (7) 窓口ご来店キャンペーン (JAにったみどり) 28

2 地域活性化への取組み等

- (1) 1支店1協同活動で地域貢献 (JAたのふじ) 29
 (2) 農村女性フレッシュミセスの集い (JA孺恋村) 30
 (3) 農業祭の開催 (JA太田市) 31
 (4) 所得向上をめざし「Menko i ガールズ・サラダ」とタッグ
 (JA邑楽館林) 32

I 取組概要

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

JAバンク群馬では、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成27年3月末時点のJAバンク群馬の農業関係資金残高^(注1)は21,281百万円（うち農業経営者向け貸付金19,025百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金残高^(注2)は4,747百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンク群馬が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

	平成27年3月末現在
農業	19,025
穀作	819
野菜・園芸	8,688
果樹・樹園農業	662
工芸作物	377
養豚・肉牛・酪農	4,499
養鶏・鶏卵	1,020
養蚕	0
その他農業 ^(注3)	2,960
農業関連団体等 ^(注4)	2,256
合計	21,281

(注3) 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

(注4) 「農業関連団体等」には、JAや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 単位 百万円

種類	平成27年3月末現在
プロパー農業資金 ^(注5)	12,318
農業制度資金	8,963
農業近代化資金	5,900
その他制度資金 ^(注6)	3,063
合計	21,281

(注5) 「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注6) 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 単位 百万円

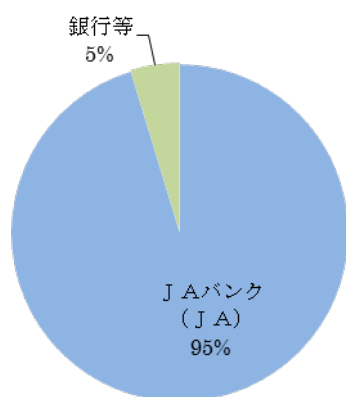
種 類	平成27年3月末現在
日本政策金融公庫資金	4,747
そ の 他	0
合 計	4,747

(※) 主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

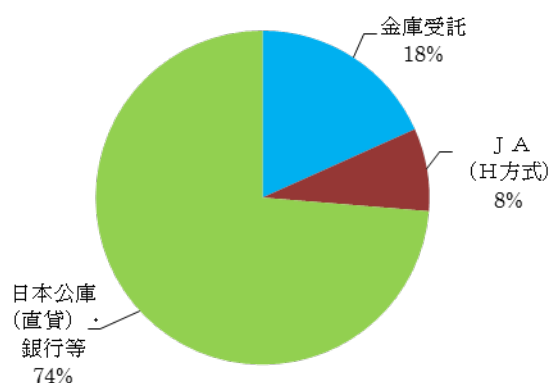
JAバンク群馬は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【群馬県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

近代化資金取扱いシェア
(平成26年12月末時点)



公庫農業資金取扱いシェア
(平成27年3月末時点)


(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

JAバンク群馬では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

a 担い手金融リーダーの設置

JAでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、全15JAの本所(店)に各2名、合計30名を配置しています。

b 農業融資資格制度の取得促進

JA系統独自の農業融資資格制度として、「JAバンク農業金融プランナー」を導入しています。県内の有資格者は、平成26年度末時点で118名となっています。

農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウ

ウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応じていくことを目的としています。

c 農業金融センター機能の構築

農林中央金庫前橋支店では、JAのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

具体的取組事例
<p>JAあがつまにおいて、営農・経済事業職員を対象に、農業資金に関する知識を習得するための研修会を開催しました。</p>
<p>JA利根沼田において、こんにやく生産者との取引拡大に向けて、営農部門と金融部門が同行訪問を実施しました。部門横断で同行訪問を行うことにより、訪問先での相互補完ができ、効率的な訪問となりました。</p>
<p>全農群馬県本部が主催するアグリマシフェア（農業機械大展示即売会）に参加し、会場内に設置したJAバンクコーナーにおいて、農業資金のPRおよび資金相談を行いました。</p>
<p>県中央会が主催する営農指導員初任者研修会に出講し、農業資金に関する基礎知識や資金相談を受けた場合の対応等について講義を行いました。</p>

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

JAバンク群馬では、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

新規就農者の経営と生活をサポートするため、新規就農者向けの資金を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件, 百万円

	平成 26 年度 実行件数	平成 26 年度 実行金額	平成 27 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	0	0	0
就農支援資金	1 0	4 3	3 3 9
合計	1 0	4 3	3 3 9

上記、資金対応に加え、新規就農者等をサポートする取組みを行っています。

具体的取組事例

県内 5 JA において、農業経営に必要な基礎知識や技術を習得する営農講座を開催しています。講座では、就農者の資質向上及び就農定着を図っています。

他の JA においても、新規就農者からの個別相談に対して、営農・金融部門が連携し、必要な支援を行っています。

JA 嬭恋村では、村内農家に嫁いだ方を対象に「農村女性フレッシュミセスの集い」を毎年開催し、地域農業の振興や組合員の生活向上に取り組んでいます。

(2) 農業法人とのネットワーク拡大

JAバンク群馬では、農業法人とのネットワーク拡大・関係強化に取り組んでおり、その一環として、群馬県農業法人協会や群馬県稲作経営者会議と共催で以下のセミナーを開催し、農業法人の経営力向上に貢献しています。

【講演会・セミナー等開催・参画状況】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
群馬県農業法人協会 春季セミナー	2015年3月12日	群馬県農業法人協会 農林中央金庫前橋支店	農業法人協 会会員等	60名	題目:アベノミクス農政と日本農業の行方 講師:合瀬 宏毅 氏(NHK解説主幹 / 農政ジャーナ リストの会会長)
群馬県稲作経営者会議 春季セミナー	2015年4月15日	群馬県稲作経営者会議 農林中央金庫前橋支店	稲作経営者 会議会員	16名	題目:農地中間管理機構をめぐる動向と機構の活用 に向けた現場の取組み 講師:小針 美和 氏((株)農林中金総合研究所 調 査第一部 主事研究員)

(3) 被災者等への支援

平成 26 年 2 月の豪雪災害からの復旧に向けて、JAバンク群馬では、被災したハウスの撤去作業に多くの職員がボランティアとして参加しました。

資金面では、群馬県とJAグループ群馬が利子補給を行い、生産者の金利負担がゼロとなる『豪雪災害緊急対策資金』を創設しました。平成26年度の取扱実績は984件・68億円となっています。

豪雪災害については、高崎市が独自の災害緊急資金を創設し利子補給を行っており、同市を管内に持つ3JAが、被災した農家に資金対応しています。

単位 件, 百万円

取組事例	JA名	内容	件数	実行金額
豪雪災害緊急対策資金の対応	JAバンク群馬	平成26年2月の大雪で被害を受けた組合員に対し、JAグループ群馬および県の利子補給を受けた低利資金を対応。 (5年間は末端金利0%)	984	6,858
高崎市農業者災害等緊急対応資金の対応	JAはぐくみ	平成26年2月の大雪で被害を受けた組合員に対し、高崎市の利子補給を受けた低利資金を対応。 (10年間は末端金利0%)	12	44
同上	JAたかさき	同上	10	49
同上	JAたのふじ	同上	15	64

(4) 経営不振農家の経営改善支援

JAバンク群馬では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【平成26年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

単位 先

	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち			再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
		再生計画を策定した先数 a	期末に債務者区分がランクアップした先数 b	期末に債務者区分が変化しなかった先数 c			
正常先①	28	0	—	28	0.0%	—	
要注意先	うち その他要注意先②	88	2	3	85	2.3%	3.4%
	うち 要管理先③	0	0	0	0	—	—
破綻懸念先④	25	3	4	21	12.0%	16.0%	
実質破綻先⑤	75	7	5	70	9.3%	6.7%	
破綻先⑥	3	0	0	3	0.0%	0.0%	
小計 (②～⑥の計)	191	12	12	179	6.3%	6.3%	
合計	219	12	12	207	5.5%	5.5%	

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成26年2月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

JAバンク群馬では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）

JAバンク群馬では、技術力のある農業法人に対してJAバンクアグリ・エコサポート基金が資本供与する「アグリシードファンド」を活用し、農業法人とのリレーション強化を図っています。

平成25年度に、県北部で露地野菜の栽培を行う農業法人向けに県内第1号の出資を実施し、その後も、定期的に当社を訪問し、業況のモニタリングや資金繰り相談を行うなど、リレーション強化に取り組んでいます。

(2) 負債整理資金による経営支援

JAバンク群馬では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成26年度 負債整理資金の貸出実績】 単位 件, 百万円

資金名	実行件数	実行金額	平成27年3月末 残高
農業経営負担軽減支援資金 ^(注1)	0	0	14
畜産特別資金 ^(注2)	0	0	709
その他	0	0	0
合計	0	0	723

(注1) 「農業経営負担軽減支援資金」は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注2) 「畜産特別資金」は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(3) 動産担保融資の活用

JAバンク群馬では、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っています。群馬県における融資の実績は下表のとおりです。

【動産担保融資活用実績】 単位 件, 百万円

	平成26年度末	
	件数	残高
農産物	0	0
畜産物	14	316
機械設備	0	0
その他	0	0
合計	14	316

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク群馬では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 食・農への理解促進

地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、平成26年度には県下の小学校317校へ約2万冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下JAでは、食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【贈呈式の様子】



<小学生から寄せられた感想>

- ・農業のことがいろいろかいてあって、とても勉強になりました。農家の人たちの苦勞がとてもよく分かりました。農家の人々のささえがあって、野菜が食べられるんだと思いました。
- ・私は、このテキストを読んで農業のことを知り、よく分かったのがよかったです。私たちが書ける所があってすごく勉強になりました。農業の人たちは、たいへんだけど助け合っているんだなあと思いました。「いただきます」や「ごちそうさまでした」を気持ちをこめて言いたいと思いました。
- ・米の作り方がとても良く分かりました。写真もあったし、作った人の話やお米のカレンダーがあって、大変さやお米の大切さが良く分かりました。お米を作るのは大変だけど、やりがいがある仕事だと、とても良く分かりました。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
赤城たちばな	ちゃぐりんを活用した食農教育	管内の小学5年生を対象にちゃぐりんを配布して農業の関心を深める。
前橋市	家の光クッキングフェスタ	地元小学生と親子を対象に地元食材を使用した料理の試食やクイズを通じ、食と農の大切さを学習する。
	さつまいも収穫体験および食味会	地元幼稚園児を対象にサツマイモの収穫体験学習に加え、収穫したさつまいもを使用した加工品を園児と一緒に食べる取り組み。

JA名	活動名	活動内容
前橋市	稲作の収穫体験学習	地元小学校を対象とした、稲作体験学習。
	じゃがいもの収穫体験学習	地元幼稚園児を対象とした、じゃがいも収穫体験学習。
	餅つき体験	地元幼稚園児を対象とした、餅つき体験学習。
	大胡支所青年部による稲作収穫体験	管内の二校の小学5年生を対象に、青年部と協力した稲作収穫体験学習。
	粕川支所青年部による稲作収穫体験	地元小学校を対象に、青年部員と協力した稲作収穫体験学習。
佐波伊勢崎	農業教室	管内小学校において、稲に関する授業から、バケツ稲や田植えの体験。
	ファミリー収穫祭	地元産とうもろこしの収穫体験を通じ食と農の大切さを学習。
たかさき	稲作体験教室	地元小学生による稲作体験教室の開催。
	親子ふれあい畜産体験ツアー	市内在住小学生とその親子によるふれあい畜産体験教室の開催。
	親子の集い	高崎産米を用いたおにぎり作りや木工細工などの親子参加型事業の開催。
	トマト収穫体験教室	適応指導教室生徒によるトマトの収穫体験および生産農家との話し合い。
はぐくみ	小学生による農業体験	農作業（田植え）体験、収穫体験（稲刈り）・収穫感謝祭。
甘楽富岡	食農教育・お米作り体験事業	管内小学4・5年生を対象に田植え・稲刈りなどを通じて行う食育教育。
	お米作り体験事業アートを描こう	管内在住の園児、小中学生を対象に田植え、田んぼの生き物調査、稲刈りの実習。田んぼを巨大絵に見立てお米を栽培する食育教育。
あがつま	青年部による食農体験学習	JA青年部により、管内小学生を対象としたさつまいもの栽培から加工までの食育体験事業を開催。
	地場産食材の学校給食	町内の食材を学校給食へ供給し、管内生産者が学校で食農教育事業を実施。
	地場産米の学校給食	村内の米を学校給食へ供給し、管内生産者・JAが学校で食農教育事業を実施。
	田植え体験学習	生産者の圃場管理を依頼し、小学生による田植え・稲刈り体験指導および、親子餅つき大会を開催。

JA名	活動名	活動内容
利根沼田	ちゃぐりんフェスタ	農産物への理解を深めるための講習とゲームを実施。
	わくわく教室	ちゃぐりんを活用し、米や田んぼの多面的機能を学んでもらう。米を使った料理で米食への関心を深める。
	親子農業体験	農作業の体験と地元料理で農業・地元食材への関心を深めてもらう。
太田市	JA太田市食育教育プラン2014	市内小学生を中心として農業体験・食農教育の推進。
邑楽館林	イチゴ収穫体験	青年部員を通じて募集した一般家庭の子供と保護者の収穫体験。
	キュウリ収穫体験	青年部員と地元小学生と連携した収穫体験および食育。
	トウモロコシ収穫体験	青年部員と地元小学生と連携した収穫体験および食育。
	白菜収穫体験	青年部員と地元小学生と連携した収穫体験および食育。
県中央会	「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール	お米・ごはん食の重要性、稲作農業が果たす多面的な役割を理解することを目的にコンクールを実施。
	学校農園設置事業	県内幼稚園、小学校に学校農園を設置し、子供達に農産物の生産過程を体験してもらうことで、農業や農産物を取り巻く環境の役割や大切さ理解してもらう。
JAバンク運営協議会	JAバンクファミリーキャンプ	親子を対象に地産地消をテーマにしたキャンプを開催。イベントを通じて金融教育を行う。

Ⅱ 取組事例集

JA新規就農応援資金の創設

1 動機 (経緯)	地域農業の持続的な発展や農業・農村の振興には、新規就農者の確保・定着化が重要な課題であるとの認識のもと、多様な新規就農者がより相談しやすい環境を整備する観点から、JAバンクとして、新規就農者をサポートする独自の資金を創設することとしました。
2 概要	<p>JAグループ群馬の「地域営農ビジョン」では多様な担い手への支援を打ち出しており、群馬県の方針でも、40歳以上65歳未満の中高齢者について積極的に支援の対象としています。</p> <p>これを踏まえ、定年帰農者等の中高齢層の新規就農者を資金面でサポートするため、全国統一資金の年齢要件（55歳未満，Ⅰ型）を65歳未満まで引き上げた内容（Ⅱ型）を含む「JA新規就農応援資金」を創設しました。</p>
3 成果 (効果)	JA北群渋川管内で県内1号案件が実行されました。借入者は定年退職後に就農し、現在は主にネギの生産を行っています。借入者からは、「これまでは定年帰農者向けの資金はなかった。本資金によりスムーズに資金を借りることが出来た」と喜んでいただきました。
4 今後の 予定(課題)	引き続き、多様な担い手の取組みを支援し、地域農業の発展・活性化に貢献してまいります。

【資金の概要】

資金名	JA新規就農応援資金Ⅰ型	JA新規就農応援資金Ⅱ型
貸付主体	JA	
貸付対象者	以下の要件を全て満たす者 (1) 組合員(正組合員・准組合員) (2) 新規就農者 (3) 原則55歳未満 (4) 信用状況に不安がないこと	以下の要件を全て満たす者 (1) 組合員(正組合員・准組合員) (2) 新規就農者 (3) 原則65歳未満 (4) 信用状況に不安がないこと
資金使途	農業経営にかかる設備・運転資金（農地の取得は除く）	
貸付限度額	1,000万円以内	500万円以内
貸付期間	【長期資金】 最長12年以内 【短期資金】 1年以内	【長期資金】 原則5年以内 【短期資金】 1年以内



豪雪災害緊急対策資金の創設と適切な資金対応

1 動機 (経緯)	平成26年2月14日から15日にかけての大雪により群馬県内では歴史的な降雪量を記録し、ビニールハウス等の農業用施設に甚大な被害が発生しました。
2 概要	復旧にかかる初期活動として、多くの金庫職員が他県連やJA職員と合同で、倒壊したハウスの撤去にかかるボランティアに参加しました。 資金面での対応としては、県内JAからの要望を踏まえ、県行政・他県連との調整を重ね、群馬県とJAグループ群馬が利子補給を行い、生産者の金利負担がゼロとなる「豪雪災害緊急対策資金」を創設しました。
3 成果 (効果)	同資金の取り扱い実績は、26年度末時点で984件・68億円となっており、最終的には100億円を超える取り扱いが見込まれています。
4 今後の 予定(課題)	県が主催する園芸用ハウス復旧加速化PT会議への参画等により、引き続き、県行政や他県連と緊密に連携し、豪雪災害からの早期復興に向けてサポートしていきます。

【被災直後のハウス】

【ボランティア活動の様子】

【ハウス撤去後】

【再建後のハウス】


アグリランドいせさきと営農支援課による農業塾の開催

1 動機 (経緯)	当JAでは、子会社であるアグリランドいせさきと営農支援課が連携し、農業経験の少ないUターン就農者や新規就農者を対象に、農業経営に必要な基礎知識や技術を習得する講座を開催し、就農者の資質向上及び就農定着を図っています。
2 概要	平成26年度において、農業塾は全6回開催し、新規就農者を含む12名が参加しました。農業塾の内容は次のとおりです。 (1) 開講式，講座内容説明，土壌の基礎知識，肥料の基礎知識 (2) 栽培圃場の準備，野菜の播種作業，病虫害防除 (3) 野菜栽培の基礎，農薬の適正使用（病虫害防除），種子の特性，肥料・園芸資材の説明 (4) 農機安全作業，トラクターの整備点検，作業機の装脱着，ロータリー耕の実演，農業機械の展示紹介 (5) 視察研修会 (6) 青果物の流通，経営管理（青色申告），就農支援対策，修了証授与式
3 成果 (効果)	農業後継者の育成を通して、地域の農業経営基盤の拡大・強化に繋がる取組みとなっています。
4 今後の 予定（課題）	今後も、毎年開催していくこととしています。

【播種準備の様子】


こんにやく生産者との取引拡大に向けた推進活動

1 動機 (経緯)	こんにやく農家に対するJA存在意義の発揮や、取扱量の増加、出荷増に伴う貯金量の増加といった観点から、こんにやく生産者の取込みや関係強化が必要であることを認識し、営農・販売部と金融部による同行訪問を実施しました。
2 概要	JA管内全地区のこんにやく生産者を対象とし、出荷シーズン前の10月と、出荷シーズンが終了する12月に訪問活動を実施しました。 なお、訪問は営農経済部門職員と信用部門職員が同行し実施しました。 ○10月 JA集荷の取扱量増加と農業資金のPR ○12月 販売代金入金に伴う貯金推進
3 成果 (効果)	同行訪問することにより訪問先での相互補完ができ、効率的な訪問を展開することができました。 また、こんにやくの販売金額や貯金残高の増加にも、一定の効果があったものと考えられます。
4 今後の 予定(課題)	事業間連系の実践により効果的な推進活動を実施することが、JA事業の伸長につながるものと感じています。今後は、こんにやく農家に加え果樹農家に対しても、この取組を展開していく予定です。

【JA営農経済総合センター】

【こんにやく畑】

【推進活動の様子】

【訪問後の確認・とりまとめ】


就農支援講座の開講

1 動機 (経緯)	就農希望者や定年帰農者のバックアップや、農業経験者のスキルアップを後押しするため、農業指導センターと連携し就農支援講座を開催しています。 また、農業実習の一環としJA新採用職員も参加しています。
2 概要	講座では、土づくりや野菜の栽培管理、農薬の使用方法や農業経営などの研修会を開催しています。 また、当講座は農作業中の安全対策にも力を入れており、草刈り機や管理機の操作実習、保守点検など、圃場での研修会も実施しています。
3 成果 (効果)	平成26年度で8回目の開催となりましたが、各回10~15名の方が参加しています。 この講座の修了者には、ネギやほうれん草栽培に取り組んでいる方もおり、定年退職者を中心とした担い手の確保にもつながっています。
4 今後の 予定(課題)	受講者からは、「後継者として農業の基礎を学びたい」といった積極的な意見も聞かれており、今後も就農者の定着に向け継続的な支援を行っていきたいと考えています。

【JA組合長による講義】

【受講者の様子】

【圃場での操作実習】

【草刈り機の保守点検】


ビジネスマッチングを通じた経営支援

1 動機 (経緯)	JAバンク群馬では、農業メインバンク機能強化の一環として、ビジネスマッチングを通じた経営支援を行っています。
2 概要	<p>農林中央金庫前橋支店の取引先であり、県内でソバの生産・加工・販売を行う農業生産法人から、自社で生産・加工したそば粉を保管・運搬する物流業者の紹介依頼を受けました。</p> <p>これを受けて、前橋支店および本店の取引先2社を紹介し、第1回目の商談にそれぞれ同行したほか、その後の商談内容等のフォローを行いました。</p>
3 成果 (効果)	商談を重ねた結果、本店取引先である大手物流業者との間で、フレコンバックの使用に関する取引が成約しました。
4 今後の 予定(課題)	引き続き、農業者からのニーズに応じ、ビジネスマッチング機能の提供等による、販路拡大等の経営支援を行っていきます。

【そば畑】

【加工場】


群馬県農業法人協会春季研修会の開催

1 動機 (経緯)	県内の農業法人とのリレーション構築・強化を図るため、群馬県農業法人協会の会員を対象に、同協会と共催で研修会を開催しました。
2 概要	(1) 開催日時 平成27年3月12日(木) 15:00~17:00 (2) 開催場所 マーキュリーホテル(群馬県前橋市) (3) 講師 NHK解説主幹 合瀬宏毅氏 (4) 演題 アベノミクス農政と日本農業の行方
3 成果 (効果)	講師からは、日本農業をめぐる情勢に対応した国の取組み等の解説や、ダーウィンを例にとり、「知恵を絞って変化に対応できるものだけが生き延びる」とエールを送っていただきました。 参加者からは、普段はテレビで解説されている合瀬さんから話が聞けて刺激を受けた等の感想をいただきました。
4 今後の 予定(課題)	今後とも、農業法人の皆様のニーズに沿った情報提供・経営サポート等に取り組みます。

【研修会の様子】



群馬県稲作経営者会議とセミナーを共催

1 動機 (経緯)	県内の大規模稲作経営者とのリレーション構築・強化を図るため、群馬県稲作経営者会議の会員を対象に、同会議と共催でセミナーを開催しました。
2 概要	(5) 開催日時 平成27年4月15日(水) 15:00~17:00 (6) 開催場所 群馬県公社総合ビル(群馬県前橋市) (7) 講師 株式会社農林中金総合研究所 小針美和 主事研究員 (8) 演題 農地中間管理事業をめぐる動向と機構の活用に向けた現場の取組み
3 成果 (効果)	講師からは、農地中間管理機構の設立過程や同機構を活用した農地集積の事例などについて説明をいただきました。 出席者からは、農地中間管理事業の意義や問題点等について質問があり、活発な意見交換の場となりました。
4 今後の 予定(課題)	農地中間管理事業の進展に向けた取組みを進めていく中で、同会議の会員である大規模稲作経営者とのリレーション構築を図る良い機会となりました。 今後も、定期的なセミナーの開催等を通じて、適切な情報提供・経営サポート等に取組みます。

【セミナーの様子】



ファンドによる資本供与と経営実態に即した与信枠の設定

1 動機 (経緯)	農業法人に対し一層のサポートを行っていく観点から、技術力のある農業法人に対して資本供与する「アグリシードファンド」の提案を行ってきました。
2 概要	平成 25 年度に、露地野菜の栽培を行う農業法人向けに県内第 1 号の出資を行い、出資完了後も、定期的に当社を訪問し、業況のモニタリングを行うとともに資金繰り等の相談に乗ってきました。
3 成果 (効果)	経営実績のモニタリングや経営相談を受ける中で、季節性の運転資金に対応する与信枠について相談を受け、運転資金枠の設定を行いました。 資金枠の設定に際しては、資金繰り表の作成支援を行う中で、双方が納得する形で必要資金額の算定を行うなど、従来以上に関係を深めることが出来ました。
4 今後の予定 (課題)	引き続き、訪問活動等によりアグリシードファンドの提案を行っていくとともに、同ファンドの利用を通じて、農業法人に対する経営サポートを行ってまいります。

【当社農場】



学校給食への野菜供給と地元野菜を使った高崎ソース・しょうゆ

1 動機 (経緯)	学校給食への野菜供給は、学校栄養士が1人の生産者に野菜を納めて欲しいとの話しをきっかけにして生まれ、当JAが学校給食と生産者を繋ぐ架け橋となる役割を担い開始しました。
2 概要	高崎市の学校給食には地場野菜を多く取り入れており、当JAからジャガイモ、タマネギ、ニンジン、トマト、チンゲン菜、オータムポエム(アスパラ菜)等、多種多様な地場野菜の供給を行っています。 また、地場野菜の安定的な供給や学校栄養士と協力して作った「高崎ソース」(地場産のタマネギ・トマト等を使用)、「高崎しょうゆ」等も生み出し、学校給食に対する積極的な取組みを行っています。
3 成果 (効果)	JAとして、地場野菜の生産、地域農業の活性化、生産者の生産意欲の向上という意味で、同事業は非常に重要な位置付けを担っております。 また、給食を食べる子どもにとっても身近にある良品質の地場野菜を口にすることで、食農教育等にも役立っております。
4 今後の予定(課題)	高崎市内では、良質な地場野菜を給食に出したいとの学校の要望も増えています。また、生産者側も、生産意欲が高まるとともに、安定した販路が確保できるという利点もあり、今後も学校給食と生産者を繋ぐ役割を担っていきたいと考えています。

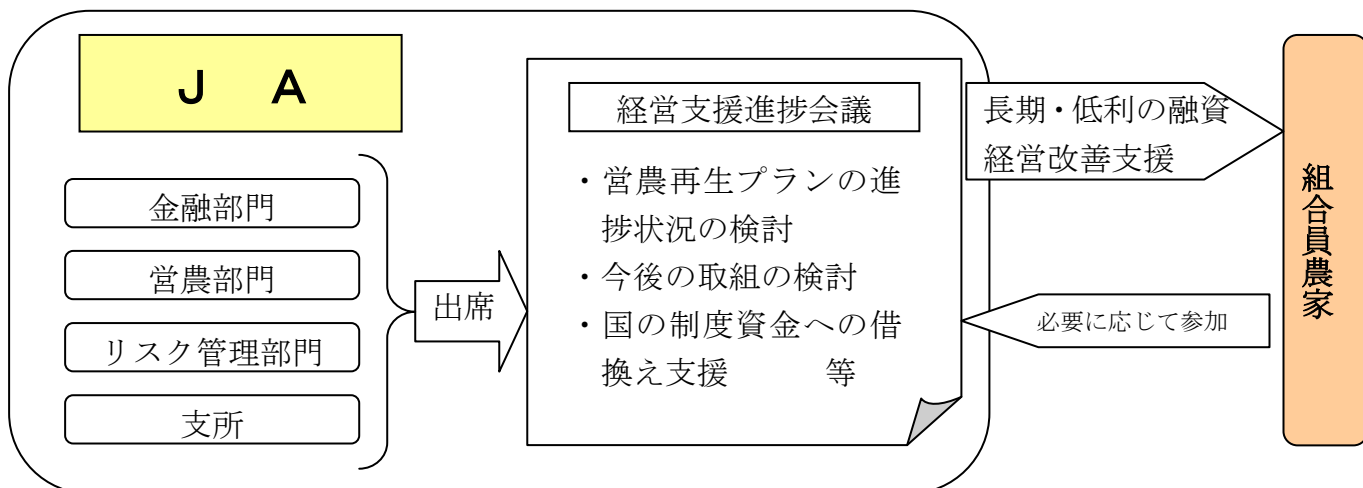
【地場産のタマネギ・チンゲン菜】

【高崎ソース・高崎しょうゆ】


営農再生プランの策定と長期・低利資金の融通による経営支援

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>飼料・肥料・燃料等の値上がりや農畜産物の価格低迷により営農負債が増加し、経営不振に陥ってしまった農業者への支援策として、「営農再生プラン」を策定し経営改善を図り、長期・低金利の資金として「農業経営支援特別資金」(以下「JA独自資金」)を制定しています。</p>
<p>2 概要</p>	<p>(1) 目的 営農再生プランを策定し、農業経営の継続を希望する農家に対し、長期・低金利の資金を融通すること。 (2) 対象者 営農再生プラン適用農家。 (3) 限度額 緊急営農対策資金、平均払勘定、購買未収金の残高を限度額とし、営農再生プランに基づいて算出した融資実行可能額。 (4) 期間 15年以内 (5) 体制 営農再生プランを策定した農家については、四半期に1回JA内で開催する「経営支援進捗会議」で金融部門や営農部門等が連携して、計画の進捗状況やこれからの経営安定化に向けた支援について検討しています。</p>
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>これまでに、購買未収金のある大口取引先に対して証書化を図り、償還が困難な借入金を、JA独自資金へ一括で借り換えることにより経営の維持と安定を図りました。 JA独自資金から、より返済負担の少ない国の制度資金への借換えを支援することにより、組合員農家の返済負担軽減等の経営支援につながりました。</p>
<p>4 今後の 予定(課題)</p>	<p>(1) 資金の円滑な償還促進に努めます。 (2) 組合員農家の経営管理に努めます。</p>

【スキーム図】



農産物直売所でポイントカードを導入

1 動機 (経緯)	当JAで運営する農産物直売所「産直ゆうあい館」の利用者へのサービス向上のため、群馬県電算センターの協力のもと、平成27年3月23日より直売所ポイントシステムを導入しました。
2 概要	ポイントカードは、216円(税込)お買い上げ毎に1ポイント付与し、ポイント累計が200ポイントになると200円の利用券を差し上げております。
3 成果 (効果)	現時点で約5,500名の方に会員となっていていただき、会員の皆様からは大変好評をいただいております。
4 今後の 予定(課題)	ポイントカード保有者へのサービス向上に向けて、時間帯や曜日によりポイントを2倍にする等の企画を検討しています。

【産直ゆうあい館の全景】



【お客様で賑わう店内】



【ポイントカード】



梅の魅力を県内外でPR

1 動機 (経緯)	群馬県の梅の生産量は和歌山県に次いで全国第2位となっており、その中でも、当JA管内の「榛名梅林」「箕郷梅林」で県全体の7割を生産するなど、梅の一大産地となっています。
2 概要	<p>PR活動の一環として、行政と協力し、JR高崎駅構内の新幹線改札口で青梅の無料配布を行いました。これまでは、高崎市庁舎前広場で行っていましたが、県外へ広くPRするため、新幹線改札口で行いました。</p> <p>当日は、500gの青梅と「簡単レシピ」のリーフレットを用意し、「梅酒や梅ジュース加工にどうぞ」と一人一人に手渡しました。</p>
3 成果 (効果)	大変好評をいただき、用意した600人分の生梅が直ぐになくなるなど、多くの方々に群馬県産梅の魅力を伝えることが出来ました。
4 今後の 予定(課題)	これからも、各梅部会や県共計生梅運営委員会と協力して、首都圏の市場・量販店・ベント会場等で積極的な販売促進活動を展開し、群馬の生梅をPRしていきたいと考えています。

【榛名梅林】

【梅選果場】

【高崎駅構内でのPRの様子】


規格外野菜を福祉施設に寄付

1 動機 (経緯)	平成25年3月より、食べられるのに形や傷などを理由に市場で売れない「規格外野菜」を福祉に役立てようと、40年余り取引を続けているスーパーの西友と協力して福祉施設に寄付する取組を始めました。
2 概要	JAが西友に販売する野菜と販売できない「規格外野菜」を一緒に埼玉県川越市の物流センターに持ち込みます。 そこから食べられるのに廃棄される食品を引き取って福祉施設などに提供しているNPO法人が「規格外野菜」と寄付食品を一緒に引き取り、児童養護施設など約30施設に届けています。寄付野菜は施設をローテーションで配送しているため1回の配送は数件です。
3 成果 (効果)	野菜を提供する農家は約20軒で送るのは週3回、1回の量は50kg前後です。福祉施設では野菜の需要が高く、新鮮な野菜の寄付は大変喜ばれています。
4 今後の 予定(課題)	提供農家を増やし、今後さらに「規格外野菜」の有効活用により社会貢献に寄与していきたいと考えています。

【規格外野菜】



【規格外野菜を活用】



ユニクロとコラボレーション企画

1 動機 (経緯)	JAは安心・安全な地場農産物とJAバンクサマーキャンペーン等をPRする目的で、ユニクロ安中店は同店開店10周年を機会に知名度アップを目的に、今回初めてコラボレーションイベントを開催しました。
2 概要	開催日時：平成27年6月26日（金）～29日（月）の4日間 開催場所：ユニクロ安中店駐車場 【主なイベント】 ・JAバンクサマーキャンペーンチラシ等の配付 ・金融・共済関係のアンケートによる地場産タマネギの無料詰め放題 ・エダマメやトウモロコシなど地場農産物の出張販売 ・綿菓子、ポップコーンの無料配付 など
3 成果 (効果)	ユニクロの買物客等で約1,600人の来場者でにぎわい、タマネギの詰め放題も好評で、若年層にもJA事業のPRを行うことができました。
4 今後の 予定(課題)	これからも、様々なイベントや活動を通じて、特に農業の担い手や若年層に対してJA事業をPRしていきます。

【会場の様子】

【地場野菜の直売】

【タマネギの袋詰め】


あぐりキッズスクールの開催

1 動機 (経緯)	食べることの大切さや、農業の大切さを知ってもらうことを目的に、平成19年より「あぐりキッズスクール」を開催しています。
2 概要	小学生3～4年生を対象に、以下の講座を行っています。 ○5月 開校式、JA圃場にて野菜の苗植え ○6月 青年部による苗の育て方勉強会、苗の観察ノートを作成・発表会 ○7月 家で育てた野菜と圃場で収穫した野菜でバーベキュー ○10月 農家で野菜の収穫体験、畜産農家見学、JA施設見学 ○12月 閉講式、親子料理教室・感想の発表
3 成果 (効果)	毎回20名程度の参加があり、参加者からは「食べられなかった野菜も自分で作ると食べられるようになる」、「広い範囲で友達ができる」といった意見が聞かれました。また、若い親世代にもJAを知ってもらう良い機会となっています。
4 今後の 予定(課題)	子供のころ体験したことが子供の一生に影響を与え、農業に対する理解や興味が深まるものと考えています。今後も食育活動の一環として継続的に開催していきます。

【開校式】

【圃場での野菜苗植え】

【収穫した野菜で料理】

【野菜の勉強会】


アグリレンジャー

青年部による食農教育活動

1 動機 (経緯)	食と農のつながりの大切さを次世代に伝えていくため、青年部が主体となり、平成26年度から、JA管内の児童を対象とした食農教育活動を本格的にスタートしました。
2 概要	平成26年度は、児童とその保護者合わせて約30名が参加し、サツマイモの栽培から加工までを、全5回に分けて体験しました。 ○第1回 6月中旬 サツマイモ苗の植え付け ○第2回 7月下旬 経過観察・除草作業 ○第3回 10月中旬 サツマイモの収穫 ○第4回 11月中旬 サツマイモの加工(乾燥イモ作り) ○第5回 12月下旬 イラストシール作り・乾燥イモの袋詰め
3 成果 (効果)	参加者からは「とても楽しかった」「食物を育てる大変さが実感できた」などの感想が寄せられ、企画意図である『食と農のつながりの大切さ』を感じてもらうことができました。
4 今後の 予定(課題)	平成27年度は、大豆の栽培と味噌豆腐作りを行うこととしており、昨年度を上回る児童・保護者の方にご参加いただいております。こうした活動を通じて、子供たちに農業の楽しさや苦勞を学んでもらえればと考えています。

【植え付けの様子】

【収穫の様子】

【加工の様子】

【袋詰めの様子】


窓口ご来店キャンペーン

1 動機 (経緯)	当JAでは、日頃のご愛顧に感謝を込めて、年金支給日に、「窓口ご来店キャンペーン」を実施しております。
2 概要	年金支給日にご来店いただいた方で、以下の条件を満たす方を対象に、各回毎合計1,200名様に県内産農畜産物をプレゼントしております。 対象となるのは、当JAにて年金振込（公的年金）をされ、キャンペーン実施日にご来店された方、および新規契約にて定期・定積、年金振込（公的年金）をされ、キャンペーン実施日に各窓口へお越しいただいた方です。
3 成果 (効果)	当キャンペーンは毎回ご好評をいただいております。キャンペーン実施日には、開店前から行列ができるなど大勢の方にご来店いただきました。
4 今後の 予定（課題）	今後も、地域の方々との繋がりを大切に、地域の活性化に貢献していきたいと思っております。

【今年度実施のキャンペーン】


JAにっただみどり

数に限りがございます。お早めにご来店ください！

「日頃のご愛顧に感謝を込めて」

窓口ご来店キャンペーン

JAにっただみどりの
各支店窓口で6日間限定

先着合計
1,200名様
県内産農畜産物
プレゼント!

下記6日間にご来店ください。

4月15日	6月15日	8月14日
10月15日	12月15日	2月15日

プレゼントの対象者等、詳しくは裏面をご覧ください

JAにっただみどり ホームページアドレス <http://www.japanbank.com>

【ご来店時の様子】


1支店1協同活動で地域貢献

1 動機 (経緯)	JAによる地域貢献活動の一環として「1支店1協同活動」を平成25年度より行っています。
2 概要	<p>【清掃活動】 藤岡支店では4月18日(土)、管内の保育園で支店職員8名が参加し、場所を分担して敷地内の草むしりなどの清掃活動を行いました。</p> <p>【お祭りに参加】 万場支店ではゴールデンウィークに行われた「神流鯉のぼり祭り」に協賛、また11月に行われた「恐竜王国秋祭り」にも参加し、蒸しパンや芋串の無料配付等を行いました。</p>
3 成果 (効果)	藤岡支店の保育園清掃は通算2回目で、作業が終わるころには草を集めた袋がいっぱいとなり、先方から大変喜ばれました。万場支店のお祭りでは町と一体となり取組み、JA事業をPRすることができました。
4 今後の予定 (課題)	JAは地域に密着した組織であり、引き続き、地域貢献を通じてJA事業の理解やJAファンの増加を目指していきます。

【保育園での清掃活動の様子】

【無料配布の様子】


農村女性フレッシュミセスの集い

1 動機 (経緯)	嬭恋村内の農家に嫁いだ方を対象に、バーベキューをしながら農村女性間の親睦を図ることを目的に毎年開催しています。
2 概要	村内各地区からフレッシュミセス42人と嬭恋村役場・JA関係者が参加し、参加者による自己紹介やお楽しみ抽選会などを楽しみました。
3 成果 (効果)	参加者は日頃の忙しさから解放され、和やかで楽しいひとときを過ごし、賑やかに親睦が図れたようです。
4 今後の 予定(課題)	今回のような様々なイベントを通じ、地域農業の振興や組合員の生活向上に努めてまいります。

【懇親会の様子】



農業祭の開催

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>農業祭は、「食」と「農」を通じた地域とのふれあいを目的に、JA太田市と東毛酪農が共催して開催しています。</p> <p>今回で7回目を迎え、近隣から多くの地域住民の方に来場していただくなど、盛大に開催することができました。</p>
<p>2 概要</p>	<p>開催日時：平成26年11月22日</p> <p>開催場所：城西の杜直売所駐車場・農村環境改善センター</p> <p>【主なイベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校金管バンド演奏，各地区の出演者による演目 ・餅つき体験，米の食味会， ・お米のつかみどり ・牛乳無料配布，乳しぼり模擬体験，バター作り など
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>当日は、秋らしい晴天のもと、乳しぼりの模擬体験などの各種イベントや、小学校金管バンドの演奏、また、食農体験事業の一環として、各小学校の農業体験記を展示するなど、大いに賑わいました。</p>
<p>4 今後の 予定(課題)</p>	<p>今回の取り組みを含め、様々なイベントや活動を通じ、引き続き地域農業の振興や組合員・地域の皆様の生活、暮らしの向上に努めます。</p>

【金管バンドの演奏】



【会場の様子】



【乳搾り疑似体験】



【うどんの販売】



所得向上をめざし「Menkoiガールズ・サラダ」とタッグ

1 動機 (経緯)	「日本トップクラスのキュウリ産地から消費者に向けてキュウリの食べ方を提案する楽曲を活用し、日本全国のキュウリ消費を促すこと」 JA邑楽館林は、平成25年7月にご当地アイドル「Menkoiガールズ・サラダ」を特産物のひとつであるキュウリの購買意欲・消費拡大の促進を目的に公認し、レシピ提案型の「きゅうりちゃん音頭」を発表しました。
2 概要	JA邑楽館林と地域応援パフォーマンスアイドル「Menkoiガールズ」がタッグを組み、邑楽館林産の主要7品目の消費拡大・購買意欲促進のために発足したユニット（＝Menkoiガールズ・サラダ）です。 当初メンバーは、主要7品目（※）に合わせて、7名にて構成されています。 (※) 主要7品目：キュウリ、ニガウリ、なす、トマト、イチゴ、白菜、春菊
3 成果 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者の所得増大へ貢献するため、市場流通に加え消費者へ向けた情報発信を、「Menkoiガールズ・サラダ」と協力し、スーパー等で宣伝活動を実施しました。 ○邑楽館林産の野菜PRのため、レシピ提案型の歌とともに消費拡大を促進し、生産者の所得向上へ貢献しました。 ○JA貯金業務では、生産者の所得向上により貯金残高の増加へつながり、融資業務では、設備資金等の需要に応えるため農業資金ニーズの「訪問聞き取り調査」を実施し、負託に貢献しました。 ○JA総合事業の強みとして、営農事業と金融事業等で相乗効果が発揮されました。
4 今後の予定 (課題)	農業者の利益向上へ貢献するため、「Menkoiガールズ・サラダ」とタッグを組み、各種生産者会議や市場、スーパーなどで消費者へ楽しく作れるレシピ提案型の楽曲等を活用し邑楽館林産の継続的なPRを実施していきます。 農業融資業務は、「訪問聞き取り調査」で把握した資金ニーズへ適切に応えるための期中管理、及び新たな農業融資相談へ迅速対応するため、定期的な訪問活動を実施していきます。

【邑楽館林産の野菜PR風景】



小池組合長を中心に東京太田市場で
邑楽館林産をPR



邑楽館林産きゅうりをPR



 JAバンク群馬

(農林中央金庫前橋支店)



ちよきんぎょ®